

Newsletter of Japanese Coral Reef Society

日本サンゴ礁学会ニュースレター 2011/2012 No.2

contents

page

日本サンゴ礁学会第14回大会および公開シンポジウムのご案内	2-8
書評：地球表層環境の進化 —先カンブリア時代から近未来まで—	10
お知らせ	10

会告

2011年度総会の開催について

日本サンゴ礁学会 2011 年度総会を、下記の通り開催いたしますのでご出席下さい。
なお、総会に出席できない方は、委任状を学会事務局・浪崎直子会員 namizaki.naoko@nies.go.jp に 10 月 25 日 (火) までに電子メールでお送り下さい (メールの件名に「2011 年度総会委任状」と明記下さい)。委任状にはご自身の氏名と被委任者の氏名 (または役職) をお書き下さい。被委任者の欄が空白の場合は、総会議長に委任とします。

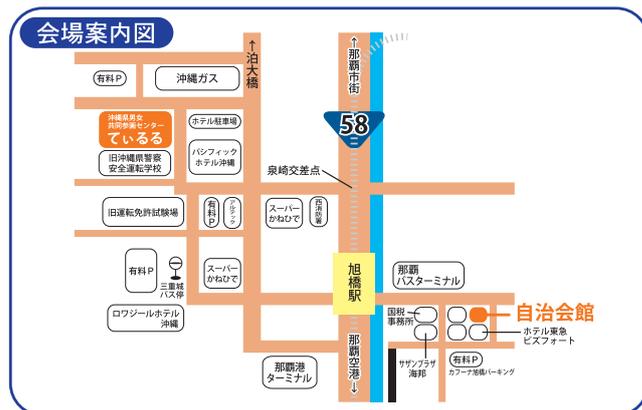
日本サンゴ礁学会 会長 土屋 誠

2011年11月5日(土) 16:30~18:00 その後受賞記念講演
沖縄県那覇市「沖縄県男女共同参画センター ている」

- 議事(案)：会計報告、監査結果報告、予算計画、各委員会報告、審議等
※総会后、学会賞の受賞講演と鈴木款副会長の受賞記念講演を予定しています。
- 事務局：茅根 創・浪崎直子

日本サンゴ礁学会 第14回大会および 公開シンポジウムのご案内

- 開催期間：2011年11月3日(木)～6日(日)
- 会場：沖縄県那覇市
 「沖縄県男女共同参画センター ているる」及び
 「沖縄県市町村自治会館ホール」(6日午後のみ)
- 第14回大会実行委員長：藤田和彦(琉球大学・理学部)



》》 スケジュール

11月3日(木) 評議員会, 各種委員会, 大会参加登録受付(13～18時)

- 09:00～ 開場
- 09:00～13:00 各種委員会
- 13:00～14:00 昼食
- 14:00～17:00 評議員会
- 18:00～20:00 自由集会1

11月4日(金) 大会初日

- 09:00～ 開場, 大会及び発表データ受付開始
- 09:45～12:00 口頭発表
- 12:00～13:00 昼食
- 13:00～14:00 ポスター発表(コアタイム: 奇数番号)
- 14:00～15:00 調査安全講習会
- 15:15～18:00 口頭発表
- 18:30～20:30 自由集会2, 3, 4, 5

11月5日(土) 大会2日目

- 09:00～ 開場, 大会及び発表データ受付開始
- 09:45～12:00 口頭発表
- 12:00～13:00 昼食
- 13:00～14:00 ポスター発表(コアタイム: 偶数番号)
- 14:00～16:15 口頭発表
- 16:30～18:50 総会, 学会賞授賞式及び受賞記念講演
- 19:30～21:00 懇親会(会場: パシフィックホテル沖縄)

11月6日(日) 大会3日目

- 09:00～ 開場, 受付
- 09:30～12:00 公開シンポジウム「サンゴ礁学ーサンゴ礁の未知なる世界へ挑む: 研究の最前線ー」
- 12:00～14:00 昼食・移動
- 14:00～17:00 公開シンポジウム「めざせ! ちゅら海ー島人が取り組むサンゴ礁の保全・再生ー」(会場: 沖縄県市町村自治会館ホール)

☞ 注意事項

- 大会の受付は11月3日(木)の午後1時から行います。11月4日午前の受付は混雑が予想されることから、3日に来場される方や来場可能な方は、できるだけ3日に受付をお願いいたします。
- 会場(ているる)には無線インターネット環境はございません。
- ホール内での飲食は禁止されています。ホール以外の場所では飲食可能ですが、ゴミを指定の場所に捨てることと、ゴミの分別にご協力をお願いいたします。
- 会場内の電源コンセントは使用できません。来場前にパソコン等の充電をお願いいたします。

☞ 研究発表について

口頭発表

- 二会場(1階ホールと2階会議室)で行います。プログラムで自分の発表する会場を確認して下さい。
- 講演時間は質疑応答を含めて1人15分です。10分で一鈴, 12分で二鈴, 15分で三鈴をならします。
- 発表機材は液晶プロジェクターを用意いたします。
- パソコンはWindowsとMacを用意します。パワーポイントのバージョンは、Windowsが2007, Macが2008です。
- 発表ファイル名は、発表番号(半角入力)でお願いします(例 1-H-07.ppt)。
- 発表ファイルをUSBメモリで持参し、発表前の休憩時間に、発表会場のパ

ソコンにコピーして、ファイルが開くことを確認してください。

- 自分のパソコンを接続して発表することもできます。その場合には、発表前の休憩時間に接続の確認をお願いします。
- 接続等のトラブルが発生した場合の遅れは発表時間に含まれますので、ご了承ください。

ポスター発表

- ポスター発表の会場は、1階入り口近くの展示コーナーです。
- ポスターの大きさは85cm(横)×140cm(縦)の範囲に収まるように作成して下さい。
- 発表番号が貼られた指定のパネルにポスターを貼ってください。画紙を用意いたします。
- コアタイム: 発表番号が奇数の方は11月4日(金)の13～14時, 偶数の方は11月5日(土)の13～14時です。

☞ 調査安全講習会について

- 日時: 11月4日(金) 14:00～15:00
- 会場: 沖縄県男女共同参画センター ているる 1階 ホール
- 主催: 日本サンゴ礁学会 調査安全委員会
- 開催趣旨: サンゴの調査研究を行ううえでダイビングが必要な場合が多々あります。安全なダイビングを行なうための基礎知識は、自身で潜水を行なう場合、学生を伴う場合、学生単独の場合はもちろん、業者に依頼する場合でも大切です。安全の指針は潜水士免許証(国家試験)や民間団体のダイビング認定証(C-

カード)を得た際の教材などに記載されていますが、必ずしも調査ダイビングにはそぐわない面もあります。ダイビングでは、ちょっとした配慮で事故の危険性を減らすことができます。一方、突然の減圧症や事故にあうこともあります。安全委員会では、ダイビングの安全性は基礎知識の再認識や安全講習(実技)の繰り返しによって高められると考えています。今回の講習会は、安全な潜水のための留意点、減圧症治療の医療現場、大学の潜水安全基準が強化される可能性、の3点をテーマに開催します。

講習内容:

- 岡本峰雄(調査安全委員会委員長・東京海洋大学)(10分)
「潜水調査における安全対策の実際」
- 茅根 創(東京大学)(10分)
「東京大学における潜水調査規約の紹介」
- 小濱正博(北部地区医師会病院)
「潜水病の治療と実態(仮)」(30分)
- 質疑応答(10分)

》公開シンポジウム①

サンゴ礁学—サンゴ礁の未知なる世界へ挑む：研究の最前線—

日時：11月6日(日) 9:30～12:00

会場：沖縄県男女共同参画センター ていえる 1階 ホール

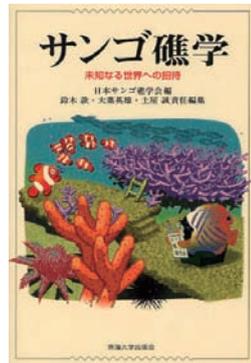
主催：日本サンゴ礁学会編「サンゴ礁学」編集委員会

共催：新学術領域研究(文部科学省科学研究費補助金)

「サンゴ礁学」研究グループ

オーガナイザー：鈴木 款・大葉英雄・土屋 誠・茅根 創

開催趣旨：1997年11月に日本サンゴ礁学会が設立されてから14年が経ちます。この間に、サンゴ礁に関する研究・調査・手法・知見等の多くのことが進歩しました。そこで、多くの人々にサンゴ礁研究の成果の最前線を届けたいという思いで、日本サンゴ礁学会編「サンゴ礁学—未知なる世界への招待—」(東海大学出版会)を企画し、出版しました。今までに、サンゴ礁やサンゴに関する多くの本や文献が出版されていますが、様々な分野の専門家が「サンゴ礁学の最前線」を体系的に一冊の本にまとめて出版するのは初めてです。



これらの研究の最前線を支えている一つは、文部科学省科学研究費補助金：新学術領域研究「サンゴ礁学」です。本シンポジウムは、学会編集本「サンゴ礁学—未知なる世界への招待—」の出版記念と、新学術領域研究「サンゴ礁学」の成果から、最近の研究の最前線を紹介します。

プログラム:

総合司会：浪崎直子(国立環境研究所)

- 9:30- 9:35 「サンゴ礁学」の本と
新学術領域「サンゴ礁学」の紹介
大葉英雄(東京海洋大学)
- 9:35-10:00 S-1-01 サンゴ礁のなりたち
井龍康文(名古屋大学)
- 10:00-10:25 S-1-02 サンゴ礁環境のダイナミクス
灘岡和夫(東京工業大学)
- 10:25-10:50 S-1-03 サンゴの生活史と共生
日高道雄(琉球大学)
- 10:50-11:15 S-1-04 サンゴを脅かす生きものたち
岡地 賢((有)コーラルクエスト)
- 11:15-11:40 S-1-05 サンゴ礁の価値を評価する
豊島淳子(東京工業大学)・土屋 誠(琉球大学)
- 11:40-12:00 総合討論
司会：鈴木 款(静岡大学)
パネラー：井龍康文, 灘岡和夫, 日高道雄, 岡地 賢,
土屋 誠, 茅根 創(東京大学)

》公開シンポジウム②

めざせ！ちゅら海—島人が取り組むサンゴ礁の保全・再生—

日時：11月6日(日) 14:00～17:00

会場：沖縄県市町村自治会館 ホール

主催：日本サンゴ礁学会・沖縄県

共催：沖縄県サンゴ礁保全推進協議会

コーディネーター：中野義勝(琉球大学熱帯生物圏研究センター瀬底研究施設)

開催趣旨：日本サンゴ礁学会は学会創設当時からサンゴ礁の保全に関する議論を展開して参りました。特に創設2年目には世界規模の白化現象が起こり、保全に関する議論は極めて活発なものになりました。これは国際サンゴ礁学会や、アジア太平洋サンゴ礁学会においても同様です。

沖縄県もまた多様な取り組みを実施してきましたが、この度、新たに沖縄県サンゴ礁保全再生事業を進めることになりました。特に移植に関する話題を主たるテーマに取り上げ、豊かなサンゴ礁生態系の保全と再生を推進することを目指しています。

沖縄では、ニライカナイ信仰に見られるように海を敬うとともに、身近な生活の場としてサンゴ礁を大切に受け継いできました。生活文化の都市化とともに

に、島と島の交通は一息で海を越え、生活にサンゴ礁を感じることも減りました。一見、美しく見えるサンゴ礁は大きな変遷の時を迎え、危機的でさえあります。島に住む人として、今あらためて海やサンゴ礁を愛おしみ、次世代に向けて育む端緒を求めて、様々な取り組みの様子を通して考えてみたいと思います。

本シンポジウムでは第一部で移植に関する話題をお話しいたできます。また第二部ではどのような保全活動をすべきか、どのような地域作りをすべきか、等のテーマについて多様な立場の方々から話題を提供していただけます。

移植については様々な意見や方法があります。また保全活動についても多様なアプローチがあります。しかしながら、サンゴ礁を保全したい、あるいは再生したいという気持ちは同じであることは疑う余地がありません。今後、さまざまな立場の皆さんがご一緒に議論し、連携体制を構築することが極めて重要です。私たちはこのシンポジウムをサンゴ礁の保全再生についてオール沖縄で議論する第一歩にしたいと考えています。

プログラム：

開催趣旨説明：土屋 誠（日本サンゴ礁学会 会長）

第一部（沖縄県におけるサンゴ礁の保全再生活動）

「サンゴ礁保全再生事業—サンゴ礁を育むちゅら海の再生に向けて—」
 富永千尋（沖縄県環境生活部自然保護課）

沖縄県では、2010年度から7年間の計画で、恩納海域と慶良間海域において、サンゴ礁再生に関する調査研究やサンゴの移植事業を進め、合わせて3ヘクタールのサンゴ群集の再生を図る事業を行う。その事業概要を紹介する。

「みんなで取り組むサンゴ礁の保全を目指して」
 西平守孝（海洋博記念財団総合研究所）

保全活動、わけても移植にもいろいろな取り組みがあることと継続的な草の根の取り組みの広がりが必要であることをまず述べる。現在県内でそのことを阻害する状況があるが、それが克服できれば、技術的にも、取り組み方にも、それが十分可能であることを、これまでの研究・活動の成果を示して述べる。

「読谷地域での移植実践活動の課題と展望」
 金城浩二（海の種）

サンゴ礁保全の実践として、個人レベルの移植から企業活動としての移植事業までへの展開の過程と、読谷漁協と取り組む小規模 MPA（海洋保護区）設定への取り組みを紹介し、私的活動の課題と今後のあり方について考える。

「石西礁湖におけるサンゴ群集再生の取り組み」
 柴田泰邦（環境省那覇自然環境事務所）

石西礁湖では自然再生協議会を中心にサンゴ再生の様々な取り組みが進められており、この一環として環境省ではサンゴ群集修復などの事業を実施している。着床具を用いた有性生殖法によるサンゴ移植事業において、平成 22（2010）年に移植したサンゴの産卵がはじめて確認された。

「移植への取り組みの考え方」
 大森 信（阿嘉島臨海研究所）

1. 汚れた海ではサンゴは育たない。2. サンゴを植えればさんご礁ができるものではない。3. 安易なサンゴ断片移植活動は技術の進歩につながらない。以上3点について述べる。

第二部（保全と将来像～かなさんどお、サンゴ礁～）

「人・社会・環境にやさしい村づくり」
 比嘉義規（恩納村漁業協同組合）

漁業は海の恵みを受けて成り立つ産業です。恩納村では、海域の環境・生態系を保全するため、水質保全対策、赤土流出防止対策、オニヒトデ除去に取り組んできた。また、白化現象等により失われたサンゴを早期に回復するため、サンゴの養殖や移植を村民や関係者と連携して行っている。

「河川海域における水質と陸源負荷の影響」
 仲宗根一哉（沖縄県衛生環境研究所）

汚水処理人口普及率の上昇と事業所排水や畜舎排水に係る法的規制により、沖縄の河川海域における水質は、BOD や COD を水質指標にすると現在はかなり改善している。その一方、栄養塩の影響はサンゴ礁海域における新たな水質問題として顕在化してきている。貧栄養のサンゴ礁海域の健全な水質環境について考える。

「サンゴ礁の環境保全教育の学校現場でのあり方」
 大城 勝（名護市立名護小学校）

本校は、総合的な学習の時間にリーフ探検やイノー探検などの自然体験学習を取り入れている。子ども達が直接海に触れ、珊瑚礁やそこに暮らす生き物等について調べる活動から、環境問題と保全の必要性について考える。

「沖縄観光を支えるサンゴ礁の魅力と保全」
 下地芳郎（沖縄県文化観光スポーツ部）

沖縄県の観光は、豊かな自然環境、島々の魅力、独自の文化などを観光資源として大きく発展してきました。特に、サンゴ礁に囲まれた美しい海は世界中の観光客を惹きつけています。沖縄県では、自然環境との共生が図られた「エコリゾートアイランド」の実現を目指し、エコツーリズムの推進や環境保全事業などを実施しているほか、観光業界の環境保全に対する取り組みを支援しています。

第三部 総合討論

》》 自由集会 (Mini workshop)

自由集会 1: Hybridization or reproductive isolation of high latitude scleractinian corals and their implication for environmental change

オーガナイザー (Organizers): 目崎拓真 (黒潮生物研究所), Shashank Keshavmurthy (Academia Sinica), Allen Chen (Academia Sinica)

日時 (Date): 3 November, Thursday (11月3日 (木))
 18:00 ~ 20:00

会場 (Venue): Meeting Room #3, 2nd Floor, Tiruru (ているる 2階 会議室3)

概要 (Abstract): Hybridization is proposed as an important source of evolutionary novelty in broadcast spawning reef-building corals, and has been hypothesised to be more frequent at the periphery of species' ranges and in marginal habitats. Therefore, hybridization is suggested to facilitate Indo-Pacific corals to expand their ranges and adapt to changing environments. In this workshop, we discuss the current available data on reproductive behavior, crossing experiments, and molecular data on high latitude corals and propose the future research direction.

自由集会 2: 石西礁湖は再生できるのか?

オーガナイザー: 木村 匡 ((財)自然環境研究センター)

日時: 11月4日 (金) 18:30 ~ 20:30

会場: ているる 2階 会議室1

概要: ミドリイシ類の新規加入が広範囲にわたって観察され、再生の兆しが見られる石西礁湖において、今後これらの群集を健全に維持するために、我々に何が出来るか、何をすべきかについて、様々な考え方の人々と議論したい。

自由集会 3: サンゴの環境変化に対する順応・適応機構について考える—ゲノム (遺伝子) から個体 (群集), 集団まで—

オーガナイザー: 井口 亮 (琉球大学熱帯生物圏研究センター)

日時: 11月4日 (金) 18:30 ~ 20:30

会場: ているる 2階 会議室2

概要: サンゴを対象とした、ゲノム (遺伝子) から個体 (群集), 集団までの幅広い研究分野の若手研究者を集い、サンゴの環境変化に対する順応・適応機構に関する最新の情報を紹介してもらいつつ、分野をまたがった研究の方向性について議論します。

自由集会 4：あなたの研究が役に立ちます！—地域と協働する研究実践事例—

オーガナイザー：権田雅之 (WWFジャパン)

日時：11月4日 (金) 18:30～20:30

会場：ているる 2階 会議室3

概要：久米島応援プロジェクトの取り組みやそれに参画する研究者から各取り組み内容を紹介するとともに、研究者による地域づくりと保全への貢献モデルが地域で継続して活用され効果をもたらす事例として、その認知と普及を計る。

自由集会 5：サンゴ礁保全からみたサンゴ群集調査の価値とあり方

オーガナイザー：サンゴ礁保全委員会 (委員長：中野義勝・琉球大学熱帯生物圏研究センター)

日時：11月4日 (金) 18:30～20:30

会場：ているる 1階 ホール

概要：サンゴ礁保全について、サンゴ群集についての情報は不可欠であるが、利用する立場と伝える立場によって期待する意図が違ふことがある。このことをお互いに理解することで必要十分な調査が成り立つものと思われる。このような観点からの活かな議論を持ちたいと思います。

👉 総会のご案内

日時：11月5日 (土) 16:30～18:00

会場：ているる 1階 ホール

※ 日本サンゴ礁学会員の皆様はご参加下さい。

👉 懇親会のご案内

日時：11月5日 (土) 19:30～21:00

会場：パシフィックホテル沖縄 2階 万座の間

👉 受賞記念講演

総会後に学会賞授賞式及び受賞記念講演と、下記の鈴木款副会長受賞記念講演を開催します。

鈴木 款 (日本サンゴ礁学会副会長/静岡大学教授)

第4回海洋立国推進功労者表彰 (内閣総理大臣表彰)

『海洋の炭素循環とサンゴ礁の研究』

👉 託児所のご案内

会場：ているる 1階 こどもの部屋

※ 託児室の利用には保育者が必要です。当日利用を希望される場合には、大会実行委員会にご相談ください。

発表プログラム

》 口頭発表 11月4日 (金) Oral Presentation, 4 Nov.(Fri)

若手優秀発表賞にエントリーされた方には、発表番号に ※ 印が付いています。
A poster number with ※ indicates a candidate for the presentation award for young scientists.

ホール/Hall 9:45～12:00

No.	時間/Time	発表題目/Title	発表者氏名(所属)/Authors (Affiliation)
座長/Chairman: 樋口富彦			
1-H-01※	9:45	Temporal Variability of Ultraviolet Radiation (UVR) and Bio-optical Factors in the Tropical Coral-reef Waters of Malaysia	○ Keiko Mizubayshi (Soka Uni.), Victor S. Kuwahara (Soka Uni.), Thirukanthan Chandra Segaran (UMT), Zaleha Kassim (UMT), A. M. W. Effendy (UMT), M. R. M. Kushairi (Unisel), Tatsuki Toda (Soka Uni.)
1-H-02	10:00	沖縄のビーチ周辺海域における環境中紫外線吸収剤濃度	○ 田代豊 (名桜大国際)・亀田豊 (埼玉県環科国七)
1-H-03	10:15	リュウキュウスガモ抽出物がサンゴ幼生に与える影響について	○ 末吉康佑 (琉球大・教育)・中野義勝 (琉球大・熱生研)・井口亮 (琉球大・熱生研)・照屋俊明 (琉球大・教育)
1-H-04	10:30	礁池内の栄養塩および濁りの現状とこれらがサンゴの生息状況に及ぼす影響	○ 金城孝一 (沖縄衛環研)・仲宗根一哉 (沖縄衛環研)・灘岡和夫 (東工大・情理工)
休憩/Break (15分)			
座長/Chairman: 中村隆志			
1-H-05	11:00	サンゴ礁の基礎生産量の再評価：サブ環境の相互連携	○ 鈴木 款・カサレト ペアトリス・アゴスティーニ シルバン・田代翼・脇坂傑智 (静岡大・創造)・藤村弘行 (琉球大学 理学)・中野義勝 (琉球大・熱帯生物圏)
1-H-06※	11:15	造礁サンゴの代謝速度と海水成分の関係について	○ 会田美佳 (東北大・理)
1-H-07	11:30	石垣島轟川周辺海域より採取されたサンゴ骨格中の微量元素を用いた海洋環境の復元	○ 石川大策 (東大・新領域)・井上麻夕里 (東大・大気海洋研)・鈴木 淳 (産総研・地質情報)・渡邊 剛 (北大・院・理)・山野博哉 (環境研)・川幡徳高 (東大・大気海洋研)
1-H-08※	11:45	石垣島轟川流域に生息するハマサンゴ骨格に記録された土地利用変遷の復元の可能性	○ 大森一人 (北大・理)・渡邊剛 (北大・理)・長谷川均 (国士館大・文)・石原光則 (国立環境研)・山野博哉 (国立環境研)

会議室/Meeting room 9:45～12:00

座長/Chairman: 野澤洋耕			
1-M-01	9:45	イシサンゴに穿孔するルリツボムシ (<i>Berndtia purpurea</i> 蔓脚下綱; 尖胸上目) の繁殖生態と地理的変異	○ 広瀬慎美子 (琉球大・理)・目崎拓真 (黒潮研)・諏訪僚太 (京大・瀬戸臨海)
1-M-02※	10:00	Population dynamics of <i>Baculogypsina sphaerulata</i> in Tuvalu and aquaculture experiment toward transplantation	○ Paeniu LOPATI (Department of Fisheries, Tuvalu), Takashi HOSONO (Univ. Tokyo), Kazuhiko FUJITA (Univ. Ryukyus), Yoichi IDE (Kaiyo Planning Co. Ltd), Hajime KAYANNE (Univ. Tokyo)

1-M-03※	10:15	Coral Triangle 周辺におけるヒトデ類の種分化と遺伝子流動について	○安田仁奈(宮大・農)・Coralie Taquet(東工大)・長井敏(瀬戸内水研)・Suharsono(LIPI)・Miguel Fortes (Univ. Philippines)・Nipon Phongsuwan(Phuket Marine Biology Center)・Catherine Vogler(LMU)・Gert Worhide (LMU)・John Benzie (Coke Uni.)・灘岡和夫(東工大・情報理工)
1-M-04※	10:30	琉球列島のサンゴ礁内湾域から得られた大型ナマコ類について	○小淵正美(琉球大・ライジング)・François Michonneau (Univ. Florida)

休憩 /Break (15分)

座長 /Chairman : 目崎拓真

1-M-05※	11:00	サンゴにおける原腸形成期はいつから始まるのか?	○大久保奈弥(慶大)・David Hayward (ANU)・目崎拓真(黒生研)・野澤洋耕(BRC)・中野義勝(琉大)・Sylvain Foret (JCU)・深見裕伸(宮大)・Eldon Ball (ANU)
1-M-06	11:15	枝状ミドリイシの形態変異と繁殖成功	○山本広美・永田俊輔(海洋博研究センター)・鈴木豪(水研セ・西海区亜熱帯研)・磯村尚子(沖縄高専)
1-M-07	11:30	枝状造礁サンゴの形態	○中森亨(東北大・理)・佐々木理(東北大・博)・鹿納晴尚(東北大・博)
1-M-08※	11:45	イソバナ科の種同定における分類形質の検討	○式場はるか(琉球大・理工)・James Davis Reimer(琉球大・TRO-SIS)

ホール /Hall 15:15 ~ 18:00

座長 /Chairman : 本郷宙軌

1-H-09	15:15	和歌山県串本町における長寿サンゴ骨格の酸素・炭素安定同位体比からみた成長履歴と環境適応	○井笹純平(北大院・理)・渡邊剛(北大院・理)・中村隆志(北大院・理; 東工大・情報理工)・阿部理(名大院・環境)・野村恵一(串本海中公園)
1-H-10※	15:30	造礁性サンゴ骨格の窒素同位体比から復元する石垣島白保サンゴ礁の陸起源硝酸負荷の変遷	○山崎敦子・渡邊剛・宮地鼓・角皆潤(北大・院・理)・長谷川均(国士館大)・山野博哉(国環研)
1-H-11	15:45	後氷期の海面上昇期におけるモルディブ北マール環礁の礁形成	○菅浩伸(岡山大・教)・横山祐典(東大・大気海洋研)・鈴木淳(産総研・地質情報)・中島洋典(有明高専)・マホムド・リヤズ(アジア工科大)
1-H-12※	16:00	西表島北東バラス島の形成と維持	○青木健次(東京大・理)・茅根創(東京大・理)・山野博哉(国環研)・岩塚雄大(五洋建設)・片山裕之(五洋建設)・関本恒浩(五洋建設)・磯部雅彦(東京大・新領域)

休憩 /Break (15分)

座長 /Chairman : 中村 崇

1-H-13	16:30	スギノキミドリイシ表面におけるバクテリア相の年変動	○磯村尚子・儀武菜美子・上間遼(沖縄高専・生物資源)・和田実(長崎大・水産)
1-H-14	16:45	大規模白化から10年を経たサンゴ Winners と Losers	van Woessik R (Florida Inst Tech)・酒井一彦(琉球大・熟生)・Ganase A (FIT)・Loya Y (Tel Aviv Univ)
1-H-15※	17:00	Differential post-bleaching recovery of reefs in Motobu, Okinawa	○P Cabaitan (Univ. Ryukyus), K Sakai (Univ. Ryukyus), H Yamamoto (Ocean Expo Research Center)
1-H-16※	17:15	竹富島周辺海域におけるサンゴ群集構造の季節変化	○松本陽・篠野雅彦・桐谷伸夫・山之内博・樋富和夫・田村兼吉(海技研)・荒川久幸(海洋大)
1-H-17	17:30	ミドリイシ属サンゴの生活史: 群体形と攪乱への応答の関係	○向草世香(JST さきがけ・長大水産・琉大熟生研)・新垣誠司(九大天草臨海)・酒井一彦(琉大熟生研)
1-H-18	17:45	サンゴ分布北上とそのモニタリング	○山野博哉・杉原薫・河地正伸(国環研)・野島哲(九大・天草臨海)・岩瀬文人(黒潮生物研)・野村恵一(串本海中公園セ)・清本正人(お茶大・湾岸セ)・横山耕作(NPO 法人 OWS)

会議室 /Meeting Room 15:15 ~ 18:00

座長 /Chairman : Frederic Sinniger

1-M-09※	15:15	Sponge-zoanthid associations in southern Japan.	○J.A. Montenegro-Gonzalez (Univ. Ryukyus), J.D. Reimer (TRO-SIS, Univ. Ryukyus)
1-M-10※	15:30	サンゴ礁洞窟におけるスナギンチャク類の多様性	○藤井琢磨(琉球大・理工)・James Davis Reimer (琉球大・TRO-SIS)
1-M-11※	15:45	Developing a Composite Index for Vulnerability of Coastal Communities in Baler, Aurora, Philippines	○P.M. Orenco (Hokkaido University), M. Fujii (Hokkaido University)
1-M-12	16:00	Modeling residence time and particle dispersal in a mariculture area, Northwest Philippines	○E. Magdaong (Hokkaido Univ.), C.Villanoy (Univ. of the Phils)

休憩 /Break (15分)

座長 /Chairman : 作野裕司

1-M-13※	16:30	漂流プイ観測による石西礁湖から琉球諸島下流域に広がるサンゴ卵輸送の研究	○高橋悠太朗(神戸学院大・人文)・鹿島基彦(神戸学院大・人文)・櫻井かおり(神戸学院大・人文)
1-M-14	16:45	船舶搭載イメージング蛍光ライダーによる竹富島周辺海域のサンゴ分布調査	○篠野雅彦・山之内博・松本陽・桐谷伸夫・樋富和夫・田村兼吉(海技研)
1-M-15	17:00	サンゴ蛍光撮影装置が捉えた実海域におけるサンゴの変化	○古島靖夫(JAMSTEC)・鈴木貞男(O.R.E.)・丸山正(JAMSTEC, GODAC)
1-M-16	17:15	高解像度航空写真画像を用いた野外調査: サンゴ礁魚類保全のための生息地評価	○服部昭尚(滋賀大・教育)・澁野拓郎(水産セ・増養殖研)
1-M-17※	17:30	衛星画像を用いた長期的なサンゴ礁の底質分類の精度評価	○石原光則(国環研)・波利井佐紀(琉球大・熱帯生物圏研究センター)・茅根創(東京大・理)・本郷宙軌(国環研)・長谷川均(国士館大・文)・山野博哉(国環研)
1-M-18	17:45	イン(海)・シ(瀬)・ヒシ(干瀬)・イノの用語語源は	○目崎茂和

》》 口頭発表 11月5日(土) Oral Presentation, 5 Nov.(Sat)

ホール /Hall 9:45 ~ 12:00

座長 /Chairman : 甲斐清香

2-H-01	9:45	石西礁湖に見られるサンゴ群集の再生のきざしについて	○木村匡(自然環境研究センター)・下池和幸(コーラルリサーチダイバーズ)・吉田稔(海遊)・上野光弘(石西礁湖サンゴ礁調査)
2-H-02	10:00	オニヒトデの大量発生から5年、阿嘉島周辺のサンゴ礁の現状と将来の展望	○谷口洋基(阿嘉島臨海研究所)

2-H-03	10:15	"市民によるサンゴ礁生態系のモニタリング ーアオサンゴ群集・海草藻場などー"	○安部真理子(日本自然保護協会)・大野正人(日本自然保護協会)
2-H-04	10:30	久米島ナンハナリのサンゴ群集の現状とモニタリングの必要性	○藤田喜久(琉球大・大教セ・非常勤/海其自然史研究所)・塩入淳生(COLORCODE)
休憩 /Break (15分)			
座長 /Chairman : 鈴木 豪			
2-H-05	11:00	"卵から育てて移植したウスエダミドリイシの群体間の受精 及び幼生の着生:天然サンゴ群体との比較"	岩尾研二(阿嘉島臨海研究所)・和田直久(日本大学生物資源科学研究科)・大寺 晶(阿嘉島臨海研究所)・○大森 信(阿嘉島臨海研究所)
2-H-06※	11:15	大量育成を目指したサンゴ幼生の水槽着床実験	○毛塚大輔・藤原秀一・田端重夫・石水秀延(いであ株)・佐藤大樹・若松佳紀(環境省)
2-H-07	11:30	電着技術を利用した定着基盤の作成と幼生定着実験	○野島 哲(九大・天草臨海)・吉田和生(三井造船)・吉竹正実(テクノプランニング)・徳山英一(東大・海洋研)
2-H-08	11:45	電着技術を利用したサンゴ増殖に関する電場について	○木原一禎・細川恭史(三菱重工鉄構エンジニアリング(株))・鯉淵生(東京大 大学院)・谷口洋基(阿嘉島臨海研究所)・近藤康文(株シーブーム)・山本悟(日本防蝕工業(株))
会議室 /Meeting room 9:45 ~ 12:00			
座長 /Chairman : James Davis Reimer			
2-M-01※	9:45	どの遺伝子系統群の褐虫藻がサンゴ幼生への共生ソースとなり得るか?	○山下 洋(西海区水研)・鈴木 豪(西海区水研)・甲斐清香(西海区水研)・林原 毅(西海区水研)・小池一彦(広大院・生物圏)
2-M-02	10:00	サンゴ礁の褐虫藻サイクルに関する研究	○小池一彦(広大院・生物圏)・山下 洋(西海区水研)・鈴木 豪(西海区水研)・林原 毅(西海区水研)
2-M-03※	10:15	体色からホシズナの内的状態を推定する	○細野隆史(東大・理)・藤田和彦(琉球大・理)・茅根 創(東大・理)
2-M-04※	10:30	高温ストレス下におけるサンゴ体内の褐虫藻の形態変化	○鈴木利幸・カサレトベアトリス・鈴木 款(静岡大・創造科学)・中野義勝(琉球大・熱生研)
休憩 /Break (15分)			
座長 /Chairman : 波利井佐紀			
2-M-05※	11:00	Comparison of survivorship of zooxanthella-free planulae of <i>Acropora tenuis</i> and zooxanthellate planulae of <i>Pocillopora damicornis</i> under thermal stress	○Dwi Haryanti(琉球大 理工学)・波利井佐紀(琉球大 熱生研)・日高道雄(琉球大 理)
2-M-06	11:15	高温ストレス下でのハナヤサイサンゴプラヌラ幼生の細胞死について	安田直子(琉球大 理工学)・Dwai Haryanti(琉球大 理工学)・○日高道雄(琉球大 理)
2-M-07	11:30	サンゴ礁域の底質シルト分がサンゴ幼生の着生に及ぼす影響	○山木克則(鹿島技研)・鈴木 豪(水研セ・西海区亜熱帯研)
2-M-08	11:45	サンゴ初期ポリプに対する栄養塩負荷の影響	○田中泰章(琉球大・理)・井口 亮(琉球大・熱生研)・井上麻夕里・森 千晴(東大・大気海洋研)・酒井一彦(琉球大・熱生研)・中村 崇(琉球大・理)・鈴木 淳(産総研)・川幡穂高(東大・大気海洋研)
ホール /Hall 14:00 ~ 16:15			
座長 /Chairman : 中井達郎			
2-H-09	14:00	吉の浦火力発電所 サンゴ移植に関する経過報告	伊集守道(沖縄電力)・○四本恵一(沖縄電力)
2-H-10	14:15	サンゴ礁域における浚渫と港湾建設に関する国際ガイドライン	○山本 秀一(株エコー), Tom Foster(DHI Water & Environment), Emily Corcoran(UNEP-WCMC), Paul Erfteimeijer(Delft Hydraulics), Caroline Fletcher(HR Wallingford), Kobbe Peirs(Jan de Nul), Constantijn Dolmans(IADC), Adam Smith(GBRMPA), Matthew Jury(DHI Water & Environment)
2-H-11	14:30	国内初事例・サンゴ礁に係る公害紛争処理制度の適用とその経過報告	○猪澤也寸志(エコガイドカフェ)
2-H-12	14:45	白保コミュニティによる自立的なサンゴ礁保全の仕組みづくり~NPO白保の設立を目指して~	○上村真仁(WWFジャパン)
休憩 /Break (15分)			
座長 /Chairman : 藤田和彦			
2-H-13	15:15	コユビミドリイシ・ゲノムの解説	○新里宙也(OIST・マリンゲノミクスユニット)
2-H-14※	15:30	The microbiome of <i>Galaxea fascicularis</i> gastric cavity.	○S. Agostini(Univ Ryukyus), Y. Suzuki(Shizuoka Univ.), T. Higuchi(Shizuoka Univ.), B. Casareto(Shizuoka Univ.), K. Yoshinaga(Shizuoka Univ.), Y. Nakano(Univ Ryukyus), H. Fujimura(Univ Ryukyus)
2-H-15※	15:45	石垣島名蔵海域における完新世ハマサンゴ骨格の石灰化量変遷史	○岨康輝(北大・理, JAMSTEC)・渡邊剛(北大・理)・坂本竜彦(JAMSTEC)・山野博哉(国環研)・菅浩伸(岡山大)
2-H-16	16:00	サンゴ移植を経済学的に考える	○大沼あゆみ(慶應義塾大学経済学部)・大久保奈弥(慶應義塾大学自然科学研究教育センター)
会議室 /Meeting room 14:00 ~ 15:00			
座長 /Chairman : 和田 実(09, 10), 藤村弘行(11, 12)			
2-M-09	14:00	ハナヤサイサンゴ属の白化における病理組織学的解析	○和田直久・間野伸宏(日大・生物資源)
2-M-10	14:15	コモンサンゴ類を被覆する付着性珪藻の局所的ブルーム	○山城秀之(沖縄高専・生物資源)・三瓶ゆりか(東京海洋大・藻類)・鈴木秀和(東京海洋大・藻類)
2-M-11※	14:30	サンゴ礁生態系モデルの構築にむけて	○中村隆志(東工大・情報理工)・渡邊敦(東工大・情報理工)・灘岡和夫(東工大・情報理工)・中野義勝(琉大・熱生研)・山本将史(東大・理)・山本高大(東工大・情報理工)・宮島利宏(東大・大気海洋研)
2-M-12※	14:45	石垣島白保サンゴ礁砂地における流動環境を考慮した Mg-Calcite の溶解メカニズム	○山本将史・茅根創(東大・地惑)・所立樹・桑江朝比呂(港湾空港技術研)・中村隆志・渡邊敦・灘岡和夫(東工大・情報環境)

》ポスター発表 (Poster Presentation)

コアタイム：発表番号が奇数の方は1日目(11月4日)の13:00～14:00、偶数の方は2日目(11月5日)の13:00～14:00 (Core time: 13:00～14:00 of 4 Nov. for odd number, and 13:00～14:00 of 5 Nov. for even number.)

若手優秀発表賞にエントリーされた方には、発表番号に※印が付いています。
A poster number with ※ indicates a candidate for the presentation award for young scientists.

No.	発表題目 / Title	発表者氏名 (所属) / Authors (Affiliation)
P-01	Phylogeography of symbiotic polymorphism in <i>Aiptasia puchella</i> in the West Pacific	○ S. Keshavmurthy (Academia Sinica), T. Mezaki (Biological Institute on Kuroshio), J. Reimer (TRO-SIS, Univ. Ryukyus), J. T. Wang (Tajen University), H. J. Hsieh (Penghu Marine Biology Research Centre), C. A. Chen (Academia Sinica)
P-02	Assessing biodiversity along the Kaichu-Doro Leeway in Okinawa, Japan	○ J.D. Reimer (TRO-SIS, Univ. Ryukyus), K. White (TRO-SIS, Univ. Ryukyus), M. Obuchi (TRO-SIS, Univ. Ryukyus), K. Tachihara (Univ. Ryukyus), M. Tamura (OIST), H. Jenke-Kodama (OIST)
P-03※	遺伝的多様性の減少は黒潮流域北限に生息するサンゴ礁生物の分布制限要因となりえるかー潮間帯上部に生息する腹足類の事例ー	○井口 亮 (琉球大・熱生研)
P-04	亜熱帯海草藻場における葉上動物と魚類の相互関係	○甲斐清香 (西水研亜熱帯)・新垣誠司 (九大・理)・下田 徹・鈴木 豪・福岡弘紀・山下 洋 (西水研亜熱帯)・渋谷拓郎 (増養殖研)
P-05	フィリピン・ネグロス島沿岸におけるサンゴ礁と微小貝類の関係	○瀬尾友樹 (近畿大・農)・ジン・タナンゴナン (近畿大・農)
P-06	沖縄島礁池内に生息する塊状ハマサンゴ類とヘビガイ類の共生関係	○中野恵 (琉球大・理)・James Davis Reimer (琉球大・TRO-SIS)
P-07	高知県大月町における造礁サンゴに共生するクレード F の褐虫藻の存在	○久保田賢 (高知大・黒潮圏)・目崎拓真 (黒潮生物研)
P-08	異なる水深における稚サンゴの褐虫藻獲得とその経時変化	○波利井佐紀・Frederic Sinniger・中野義勝 (琉球大・熱生研)・日高道雄 (琉球大・理)
P-09	ソフトコーラル <i>Sarcophyton</i> 属褐虫藻の地域による共生関係の変化	○林正則 (琉球大・理・海洋自然)・荒武里衣 (琉球大・院・理工・海洋環境)・戸村友彦 (琉球大・院・理工・海洋自然)・J. D. Reimer (琉球大・TRO-SIS)・日高道雄 (琉球大・理・海洋自然)・前川秀彰 (琉球大・熱生圏・分子生命科学)
P-10	Annual variation in the timing of coral spawning: temperature influence	○ Yoko Nozawa (BRC, Academia Sinica)
P-11※	造礁サンゴの産卵情報は分類に役立つのか?	○目崎拓真 (黒生研)
P-12	軟体部に娘群体を作りだすコモチナガササンゴの報告	○北野裕子 (京大・理)・小淵正美 (琉大・ライジングスター)・上野大輔 (琉大・理)・深見裕伸 (宮大・農)
P-13	ミドリイシサンゴ幼生の再編再生と付加再生	松島夏苗・清本正人・○服田昌之 (お茶大・院・ライフサイエンス)
P-14※	長期飼育枝状ミドリイシの形態の可塑性について	○永田俊輔・山本広美 (海洋博研究センター)・野中正法 (沖縄美ら海水族館)
P-15	Abundance of Juvenile Corals in the Eastern Gulf of Thailand Following the 2010 Bleaching Event	○ M. Suthacheep (Ramkhamhaeng Univ.), M. Yucharoen (Ramkhamhaeng Univ.), K. Sangmanee (Ramkhamhaeng Univ.), T. Yeemin (Ramkhamhaeng Univ.)
P-16※	The seasonal dynamic of <i>Palythoa tuberculosa</i> population in Okinawa	○ S-Y Yang (University of the Ryukyus), JD Reimer (TRO-SIS, Univ. Ryukyus)
P-17※	琉球列島におけるイワスナギンチャク <i>Palythoa</i> 属の分子遺伝学的解析、繁殖生態調査に基づく網状進化の考察	○水山克 (琉球大・理工)・James Davis Reimer (琉球大・TRO-SIS)
P-18※	Octocorals of the Kumejima Expedition 2009, a molecular and morphological approach.	○ F Sinniger (Univ. Ryukyus), M Nonaka (Okinawa Churaumi Aquarium), A. Baco (Florida State University)
P-19	天皇海山南部海域におけるイシサンゴ類の分布について	○林原 毅 (水研セ・国際水研)・宮本麻衣 (水研セ・国際水研)・立川浩之 (千葉中央博)
P-20※	天皇海山海域で見られた単体性イシサンゴ類	○宮本麻衣 (水研セ・国際水研)・林原 毅 (水研セ・国際水研)・立川浩之 (千葉中央博)
P-21	Low Salinity Causing the 2011 Coral Bleaching Event in the Inner Gulf of Thailand	○ T. Yeemin (Ramkhamhaeng Univ.), S. Pengsakun (Ramkhamhaeng Univ.), W. Klinthong (Ramkhamhaeng Univ.), M. Suthacheep (Ramkhamhaeng Univ.)
P-22※	HSP 70 m RNA 発現量を指標にした海域環境におけるサンゴのストレス応答の観測	○大城洋平 (沖縄県・宮保)・金城孝一 (沖縄県・衛研)・仲宗根一哉 (沖縄県・衛研)
P-23	石西礁湖周辺におけるホワイトシンドロームの分布の変遷について	○上野光弘 (石西礁湖サンゴ礁調査)・木村匡 (財自然研)・下池和幸 (財自然研)・砂川政信 (八重山漁協)
P-24※	未来の pCO ₂ 環境がサンゴ幼体の成長に与える影響について	○諏訪僚太 (京大・フィールド研)・井上麻夕里 (東大・大気海洋研)・白山義久 (JAMSTEC)
P-25	光合成生物との共生 ～動物にとっての利点とリスク回避～	○中村 崇 (琉球大・理)
P-26※	高水温と海洋酸性化の複合ストレスがコユビミドリイシと共生藻に与える影響	○大木駿 (琉球大・理工)・田中泰章 (琉球大)・鈴木淳 (産総研)・中村崇 (琉球大)・酒井一彦 (琉球大)
P-27※	サンゴから放出される褐虫藻の形態と生理：温度ストレス下と非ストレス下での比較	○藤瀬里紗 (広島大・生物生産)・山下洋 (西海区水研石垣)・鈴木豪 (西海区水研石垣)・小池一彦 (広島大院・生物圏)
P-28※	サンゴー褐虫藻共生体における硫酸イオンの取り込み	○湯山育子・鈴木款 (静大・創造)・竹井祥郎 (東京大・理)
P-29※	アザミサンゴの色彩変異型の蛍光色素、紫外線吸収物質含量とストレス耐性について	○仲榮真礁 (琉球大 理工院)・打越拓也 (琉球大 理)・日高道雄 (琉球大 理)
P-30	PO 活性測定によるサンゴのストレス応答について	○波照間さやか (沖縄高専・専攻科)・山城秀之 (沖縄高専・生物資源工学科)
P-31※	高水温下における造礁サンゴのペルオキシダーゼ系酵素活性	○樋口富彦・鈴木款 (静大・創造)・藤村弘行 (琉球大・理)
P-32※	エダコモンサンゴの微量元素濃集による酵素活性と高水温耐性	○佐々木岳・石川恵・藤村弘行 (琉球大・理)・樋口富彦・カサレト B.E.・鈴木款 (静大・創造)
P-33	アミメヒラヤギ (<i>Annella reticulata</i>) に繁茂するシアノバクテリアについて	○當山未樹 (沖縄高専・専攻科)・山城秀之 (沖縄高専・生物資源工学科)
P-34	石西礁湖における WS・BBD に関する海水・淡水・サンゴ組織のバクテリア組成	○カサレト ベアトリス・鈴木利幸・入川暁之・吉永光一・鈴木款 (静岡大学創造科学技術大学院)・佐藤大樹 (環境省那覇自然環境事務所)・岩瀬見啓 (いであ株式会社)
P-35※	瀬底島沿岸海域における海水中微量元素の化学形態別定量とその季節変動	○我那覇翔子・伊良波宏太・山内啓伍・小濱姫子・伊藤彰英 (琉大・教育)・儀間真一 (琉大・機器セ)

P-36※	Contribution of microbial community on the dissolution of calcium carbonate	○ Islam, M.N., Higuchi, T., Casareto, B.E and Suzuki, Y. (Graduate School of Science and Technology, Shizuoka University)
P-37	石垣島白保海域および轟川における農薬の分布	○藤村弘行・兼城貴司・大森保(琉球大・理)・佐川鉄平(WWFJ・しらほサンゴ村)・樋口富彦・カサレト B.E.・鈴木款(静大・創造)
P-38	LDO およびマイクロチャンバーを用いた溶存酸素量現地観測の方法について・第2報 ～サンゴ礁上における有機物生産量の空間構造把握のために	○中井達郎(国土館大学・江戸川大学)・藤村弘行(琉大・理・海洋自然)・佐々木岳(琉大・理・海洋自然)・Beatriz Casareto(静大・院・創造科学技術)・鈴木款(静大・院・創造科学技術)
P-39※	裾礁型サンゴ礁域を対象とした3次元物質循環・低次生態系モデルの開発と溶存有機物動態特性の解析	○山本高大(東工大・情報理工)・渡邊 敦(東工大・情報理工)・中村隆志(東工大・情報理工)・灘岡和夫(東工大・情報理工)・宮島利宏(東大・大気海洋)・田中泰章(琉大・熱帯生物圏研究センター)・鈴木 款(静大・創造)・B.E. Casareto(静大・創造)・A.C. Blanco(Univ. Philippines Diliman)
P-40	流動付加制御機構付き新型チャンバーシステムの開発と応用	○灘岡和夫(東工大・情報理工)・中村隆志(東工大・情報理工)・渡邊 敦(東工大・情報理工)・中野義勝(琉大・熱生研)・山本将史(東大・理)・宮島利宏(東大・大気海洋研)・鈴木 款(静大・創造)・B.E. Casareto(静大・創造)・茅根 創(東大・理)
P-41	石垣島周辺海域における溶存有機態リンと粒子状リン濃度	○下田 徹・福岡弘紀(水研セ西海水研亜熱帯)
P-42	モンテカルロシミュレーションを用いた久米島南西礁池におけるSPSS変動の将来予測	○中宗根一哉(沖縄衛環研)・金城孝一(沖縄衛環研)・佐藤泰夫((株)いであ)
P-43	衛星データによる奄美大島豪雨災害直後のサンゴ礁上の濁水分布推定	○作野裕司(広島大・工)・興克樹(ティダ企画)
P-44※	Monitoring changes in sandy beach along lagoonal coast of Fongafale Island, Tuvalu	○Ane TALIA (Department of Land and Survey, Tuvalu), Daisaku SATO, Hiromune YOKOKI (Ibaraki Univ.), Hiroya YAMANO (National Inst. Environmental Studies), Hajime KAYANNE (Univ. Tokyo)
P-45	古環境復元のための簡易小径サンゴコアリングシステムの開発	○池田昌隆(北大・高等)・渡邊剛(北大・理)
P-46	過去の栄養塩環境復元に向けた石灰藻 Halimeda spp. の $\delta^{15}N$ 値の解析	○相場友里恵(東大・理)・梅澤 有(長崎大・水産)・茅根 創(東大・理)
P-47	シャコガイの成長輪は何を記録しているのか	伊佐地彩加(名古屋大・環境)・浅海竜司(琉球大・超域)・高柳栄子(名古屋大・環境)・○井龍康文(名古屋大・環境)
P-48※	サンゴ骨格中のプルトニウムの起源	P. Lindahl(韓国海洋研・現 プリマス大)・○浅海竜司(琉球大・超域)・井龍康文(名大・院環境)・P. Worsfold(プリマス大)・M. Keith-Roach(プリマス大)・M.-S. Choi(韓国基礎科学支援研)
P-49※	深海サンゴ骨格中のホウ素含量を規定する環境因子について	○田中健太郎(琉球大・理)・藤岡義三(水総研センター・増養殖)・松江秀明(原研)・大出茂(琉球大・理)
P-50※	石垣島東海岸のサンゴは1771年明和津波に耐えられたのか	○後藤和久(千葉工大・惑星探査)・本郷宙軌(環境研)・宮澤啓太郎(東北大・工)
P-51※	地球温暖化による大型台風がおよぼすサンゴ群集への影響：塊状サンゴとテーブル状サンゴについて	○本郷宙軌(国環研)・後藤和久(千葉工大)・川俣秀樹(東北大)
P-52※	サンゴ生体内のATPによる代謝指標としての可能性の検討	○小野真(静岡大・理地研)・鈴木款(静岡大・創技大学院)・Beatriz-E-CASARETO(静岡大・創技大学院)・Agostini-Sylvain(静岡大・創技大学院)・鈴木利幸(静岡大・創技大学院)・樋口富彦(静岡大・創技大学院)
P-53※	雌性先熟魚ミツボシキウセンの生殖腺性転換機構-ステロイド産生細胞の起源を探る-	○野津了(琉球大・熱生研)・堀口涼(琉球大・熱生研)・村田良介(琉球大・熱生研)・小林靖尚(琉球大・熱生研)・中村 将(琉球大・熱生研)
P-54	モノアミン神経伝達物質によるウスエダミドリイシ産卵抑制	○竹村明洋(琉球大・海洋自然)・山内千裕・竹内悠記(琉球大・理工)・磯村尚子(沖縄高専・生物資源)
P-55	石西礁湖におけるミドリイシサンゴ幼生加入パターンの解析	○鈴木 豪・山下 洋・甲斐清香・林原 毅(水研セ・西海区亜熱帯研)
P-56※	高知県奈半利町に生息する造礁サンゴ群集	○寺岡孝晃(東北大・理)
P-57	沖ノ島島産稚サンゴの移植3年間のモニタリング結果	○北野倫生(㈱エコー)・川崎貴之(㈱エコー)・山本秀一(㈱エコー)・安藤 亘((社)水産土木建設技術センター)・石岡 昇((社)水産土木建設技術センター)・中村良太((社)水産土木建設技術センター)・三上信雄(水産庁漁港漁場整備課)
P-58	瀬底島クニリ浜(瀬底ビーチ) 礁池内におけるサンゴ群集変動(2006-2011)	○中野義勝(琉大・熱生研)・中井達郎(国土館大)・藤村弘行(琉大・理)・樋口富彦・Agostini Sylvain・Casareto E Beatriz・鈴木款(静岡大・創造科学)
P-59	平良港の天然礁における造礁サンゴ群集の回復状況	光行忠司(沖縄総合事務局平良港湾事務所)・城間由樹(沖縄総合事務局平良港湾事務所)・○川崎貴之((株)エコー 環境・計画部)・岡田 亘((株)エコー 環境・計画部)
P-60	生存率を高めるサンゴ移植方法の提案	○吉本昌弘((株)沖縄環境保全研究所)・山本拓良((株)沖縄環境保全研究所)・中村崇(琉球大理)
P-61	沖縄県伊江島におけるサンゴ増殖技術開発に向けた取り組み	○石田和敬(国際航業㈱)・松田健也(国際航業㈱)・片山悦治郎(国際航業㈱)・井上公人(国際航業㈱)・安藤 亘((社)水産土木建設技術センター)・石岡 昇((社)水産土木建設技術センター)・中村良太((社)水産土木建設技術センター)・三上信雄(水産庁漁港漁場整備部整備課)
P-62	人工サンゴ増殖礁開発の試み	○安藤 亘((社)水産土木建設技術センター)・中村良太((社)水産土木建設技術センター)・山本秀一(㈱エコー)・三上信雄(水産庁漁港漁場整備課)
P-63	サンゴ電着基盤の効果について	○山本悟(日本防蝕工業(株))・木原一禎・細川恭史(三菱重工鉄構エンジニアリング(株))・鯉渕生(東京大 大学院)・谷口洋基(阿嘉島臨海研究所)・近藤康文(㈱シーファーム)
P-64	リーフチェックのマニュアルとデータシートの変更について	○土川 仁(コーラル・ネットワーク)・宮本育昌(コーラル・ネットワーク)・安部真理子(沖縄リーフチェック研究会)・渡辺暢雄(コーラル・ネットワーク)
P-65	サンゴという観光資源と地域経済の発展	○齊藤久美子(和歌山大・経済)
P-66	Automated Ribosomal Intergenic Spacer Analysis (ARISA) 法を用いたサンゴの感染症モニタリング	○和田実(長大院・水環)・磯村尚子(沖縄高専・生物資源)
P-67※	サンゴおよびサンゴ卵中のカロテノイド成分の検出	○鮫島直己・原田 遼・高橋慶光(近畿大・農)・眞岡孝至((財)生産開発科学研)・岩瀬文人((財)黒潮生物研)・米虫節夫(大阪市大・院)・森 美徳・坂上吉一(近畿大・農)

》 NPO ポスター発表 (NPO Poster Presentation)

コアタイム：11月4日と5日の13:00～14:00 (Core time: 13:00～14:00 of 4 and 5 Nov.)

No.	発表題目 / Title	発表者氏名 (所属) / Authors (Affiliation)
N-01	日本全国みんなでつくるサンゴマップ	○浪崎直子 (国立環境研究所)・大堀健司 (エコツアーふくみみ)・翁長均 (ネイチャーワークス)・佐藤崇範 (パラオ国際サンゴ礁センター)・鈴木倫太郎 (日本生態系協会)・土川仁 (コーラル・ネットワーク)・古瀬浩史 (自然教育研究センター)・鎌山謙一 (ルーツ&シューツおきなわ)・宮本育昌 (コーラル・ネットワーク)・安村茂樹 (WWF ジャパン)・山野博哉 (国立環境研究所)
N-02	サンゴの移植について	○サンゴを食害する動物駆除実行委員会
N-03	さまざまな顔を見せる大浦湾チリビシのアオサンゴ群集の紹介	○牧志治 (沖縄 BD アオサンゴ)・安部真理子 (沖縄 BD アオサンゴ)・棚原盛秀 (沖縄 BD アオサンゴ)・東恩納琢磨 (じゅごんの里)・日崎茂和 (沖縄 BD アオサンゴ)
N-04	地域で守るタイドプール サンゴの植え込みとサンゴを守る人たち	○上原直 (NPO 法人グローイングコーラル)
N-05	ネットを活用した環境に優しいサンゴ再生手法	○宮城清 (座間味ダイビング協会サンゴ礁保全委員)・山本克則 (鹿島建設)・日野林譲二 (大日本プラスチック)・中野裕治 (タキロンプロテック)
N-06	「白保アオサンゴ地図、5年ぶりの更新～地域主体のサンゴ礁調査～」	佐川鉄平 (WWF ジャパン)・鈴木智子 (WWF ジャパン)・鈴木倫太郎 (日本生態系協会)・白保魚湧く海保全協議会

書評



地球表層環境の進化
—先カンブリア時代から近未来まで—
川幡穂高 (2011)
東京大学出版会 292頁

本書は、2008年に刊行された「海洋地球環境学—生物地球化学循環から読む—」の姉妹本として出版されており、我々が生活する地球表層環境が、地球が誕生してからのような進化・発展を遂げて現在に至るのか、その過程を網羅的に解説した教科書となっている。第1章で本書を読むための基礎となる地球表層環境システムについて解説した後は、地質年代ごとの章立てがなされているため読み易く、表・裏両見返しの図表や大陸配置の変化を示した巻末図と共に参考書としても使いやすい。また「生命」という観点からの解説が一貫されているものの、大陸配置や化学風化、火山活動や氷床の有無など、常にその進化・衰退(絶滅)に対する根拠も挙げられており、生命の進化に地球環境が深く関わっていることを具体的に学ぶことができる。新生代については2章にわたって解説が行われており、特に第四紀については著者らの研究成果も織り込みながら氷期・間氷期サイクルに付随する

気候イベントや海洋環境変動について詳細な説明がなされている。

特筆すべきは第7章の「超長期の環境変動」であり、これまでの解説を復習するような形で地球表層環境システムの全体像が簡潔明瞭にまとめられている。その上で我々人間の話へと移り、近未来環境についても触れられているが、最後は先カンブリア時代の物質循環の話題に戻り、生命が確かに連続と受け継がれていること、そしてその営みの偉大さに気付かされる内容となっている。近年の地球環境問題は人間だけでなく、温暖化や海洋酸性化などサンゴにとっても生きていくのが「きつい」時代が到来しているように見えるが、様々な現象が相互に関与しながら複雑化している現代の問題を考えると、全体を俯瞰する視点というのは重要であろう。本書はその視点を与えてくれる良書である。

(書評：井上麻夕里)

i

12th International Coral Reef Symposium
の旅費支援のについて

日本サンゴ礁学会では来年7月にオーストラリアで開催される国際サンゴ礁シンポジウムへ参加される学生の会員へ向けて、川口基金より旅費の支援を行う予定です。詳しい情報は決まり次第、学会 Web やニュースレターでお知らせいたします。



お知らせ

新規入会・異動・移転の際は毎日学術フォーラムへお知らせ下さい。方法は学会 Web (<http://www.soc.nii.ac.jp/jcrs/>) の入会方法 / 所属・住所変更届をご覧ください。



ホームページのリニューアル

サンゴ礁学会の Web ページが年内に新しくなります。これまでの web ページをより見やすく、学会の最新の活動や情報をいち早くお届けできるようにいたします。どうかご期待ください。

編集後記

ニュースレターも会友向け以外は PDF 版のみとなってから、もうすぐ2年になります。紙の冊子が届かなくなっちゃちょっと寂しいと感じている方も多いと思います。他方、PCにダウンロードするのが億劫で、実は読んでみせんって方もいるかもしれないですね。現在作成中の web ページではニュースレターをすぐに表示できるようにします。新 Web でのニュースレターをどうかお楽しみに。編集担当 藤村



日本サンゴ礁学会ニュースレター [2011 / 2012 No. 2]
Newsletter of Japanese Coral Reef Society No. 51

2011年10月30日発行

- 編集・発行人 / 「日本サンゴ礁学会広報委員会」
- 藤村弘行・井口亮・梅澤有・中村崇・浪崎直子・渡邊敦
- 発行所 / 日本サンゴ礁学会 ● 事務局 / 茅根創 <kayanne@eps.s.u-tokyo.ac.jp>
- 〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻 Fax: 03-3814-6358